

# 松林が 繫つなぐ

私たちの暮らしは松林に守られてきた。松林は玄界灘からの強烈な風を防ぎ、落ち葉や枯れ枝は、焚きものなどの自然のエネルギーとして利用されてきた。

しかし近年、その松林が松くい虫の猛威によって失われつつある。無残になった松林に未来はあるか……

クロマツ林：マツ科の常緑針葉樹であるクロマツが優占する森林。本州、四国、九州の海岸に沿って分布し、海岸沿いの砂丘や断崖上の尾根など土壌が痩せ、水分の少ない場所に生育する。アカマツより木肌が黒く、葉や枝も大ぶり。

建材などにも用いられる他、防風・防砂林や並木として、全国各地で植林されてきた。クロマツは塩害に強く砂浜でも育つため、各地の海岸に植えられ防風・防砂林として維持されてきた。これらは海岸の景観を構成する重要な要素のひとつとなっている。しかし、近年は、松枯れが問題となっている。



白砂青松



松林が海からの風を  
防いでくれる

# 松

## 暮らしを守る クロマツ林

福津市を上空から見ると、海岸に沿って松林が連なっています。この松のほとんどはクロマツです。海から吹きつける強い風から農作物や家などを守っています。

福岡県の松林の多くは、江戸時代、黒田藩の政策によって植えられたと言われています。

クロマツは、海水をかぶっても枯れず、夏の強い太陽の日差しや乾燥にも強く、栄養の少ない砂地でも育つため、各地の海岸に植えられ防風・防砂林として大切に維持されてきました。

かつて松林の近くに住んでいる人びとは毎日のように松林へ出掛けて落ちていた松葉や枯れた枝を集めていました。かまじや風呂の焚きつけなどの燃料とするためです。松林に入って松葉をほうきで掃く「松葉かき」は、松林を守るための手入れとなり、美しい松林の保全に役かっています。

## 白砂青松とは

「白砂青松」という言葉をご存じですか？

上の写真のように松林に下草がほとんど無く、砂が見えている状態を白砂青松と呼びます。昔は松葉を掃く「松葉かき」で、松の育成に適した土地となっていました。そうした松と人間の共生関係によって、日本の海岸は、白い砂の上に濃い緑の松葉が茂る白砂青松の松林が保たれていました。

そのような状態の松林は、同時に日本独特の美しい景観を醸成し、私たちの心を和ませる風景となっていたのです。

## 美しい松林が 失われつつある

戦後、石油や電気、ガスを使用するようになり、これまで燃料としていた松葉や枯れ枝を集めに行かなくなりしました。その結果、松の落ち葉がたまって土壌が肥えてくると、草や松以外の木（広葉樹）がはびこり、やせ地に適応する松の木はしだいに少なくなり、昔のような美しい風景は見られなくなりました。

また松くい虫の猛威によって松が



草や雑木が茂り、ジャングルのようになった松林

## 松枯れのメカニズム

### 松枯れの原因は「線虫」

なぜ松が枯れるような異常が起こっているのか、多くの研究の末、松枯れは「マツノザイセンチュウ」という線虫によって引き起こされるということが分かりました。

「マツノザイセンチュウ」は、もと

も日本にはいない生物でした。北アメリカに生息する線虫ですが、現地では日本のような被害を起こすことはありません。日本で猛威をふるっている「マツノザイセンチュウ」は、北アメリカの輸入材と一緒に入ってきたと考えられます。

松枯れの最初の記録は、明治時代です。長崎市周辺で多数の松枯れが確認されました。その後、大正から昭和にかけて松枯れの被害は、日本列島を北上しながら全国に広がっていったのです。

### 線虫の運び屋

#### 「マツノマダラカミキリ」

マツノザイセンチュウは成虫でも体長はたったの1ミリほどの小さな線虫です。

この小さな線虫を全国に広げた乗り物がマツノマダラカミキリです。

このカミキリムシは、線虫の攻撃で弱った松の幹に卵を産みます。卵から孵ったカミキリムシの幼虫は幹

を食べながら成長し、さなぎになります。線虫はカミキリムシのさなぎに集まり、羽化したカミキリムシの体内には、多い場合で20数万匹の線虫が潜んでいるといわれています。



▲マツノザイセンチュウ



▲マツノマダラカミキリ

昭和30年代までは、松林は防風林であると同時に燃料の採集場所でもありました。枯木、枯枝、落葉は、大切な燃料であり、「松くい虫」による枯木も切られ、線虫、カミキリムシもろとも灰になったのです。そのことが「松くい虫の防除」となっていたのです。ところが、松が枯れても誰もそれを切ろうとはしない時代が到来しました。薪、木炭、石炭から石油へのエネルギー革命。こうして「松くい虫」の被害は昭和40年代後半から拡大していったのです。

# 松くい虫を防除する



▶道路から松林に薬剤を散布

松林を守るには、マツノザイセンチュウの被害拡大を食い止めることが鍵となります。

枯れてしまった松は、伐倒して適切に処分しなければなりません。マツノマダラカミキリを駆除するためです。

元気な松には薬剤を施して、枯れないように予防しないといけません。具体的な方法を紹介しましょう。

## 「駆除」と「予防」

### ○駆除する

枯死した松の材内にいるマツノマダラカミキリの幼虫を駆除します。枯れた松を伐倒し、薬剤散布や破碎処理（チップ化）などを行います。

5～7月に羽化脱出する成虫を少なくし、被害の発生を防ぐものです。



▲枯れた松をチップ化



▲枯れた松に薬剤を散布

### ○予防する

枯死した松から羽化したマツノマダラカミキリの成虫による被害拡大を防ぐために行います。

マツノザイセンチュウに感染していない健全な松に、薬剤散布や樹幹注入を行います。

### 薬剤散布でカミキリムシを撃退

元気な松の枝に、薬剤を散布します。マツノマダラカミキリが枝をかじり始めて間もないときに、枝についた薬剤を食べて死んでしまいます。マツノマダラカミキリの体の中にある線虫は、松の木に移ることができず、木は枯れずに済むのです。



▲松林の中から薬剤を散布

樹幹注入で線虫を撃退  
松の幹に穴を開け薬剤を注入します。マツノマダラカミキリによって運ばれるマツノザイセンチュウを松の材内で殺虫します。



▲松の幹に薬剤を注入

松くい虫の防除で忘れてならないのは、「駆除」と「予防」の両方が必要ということ。マツノマダラカミキリの発生源がそのままでは「予防」による防除効果も十分ではありません。

「駆除」と「予防」のそれぞれの方法を組み合わせ、マツノマダラカミキリ・マツノザイセンチュウ・松の三者の関係を断ち切ることが、松くい虫被害を最小限に食い止めるための最も有効な対策といわれています。

# 福津市の松枯れ対策

## 松林をきれいにする

松林を守るには、マツノザイセンチュウの被害を最小限に食い止めるとともに、林内をきれいに整備することが大切です。

整備する理由は2つあります。一つは薬剤が届かないということ。もう一つは松の成長が阻害されることです。

### 薬剤が届かない

松林がジャングルのように荒れている



▲草が茂って、人が入るのも難しい状態(宮司)

ると、松の枝に薬剤が届かず、カミキリムシは生き残ってしまいます。薬剤は松の新芽の部分に散布される必要があるのです。

### 陰樹が松の成長を阻害

陰樹(広葉樹)が松の成長を阻害するという事です。松は陽樹です。陽樹が育つにはたくさんの光を必要とします。

自然界では陽樹林から陰樹林へと遷移していきます。陽樹からなる高木林



▲市が大規模な伐倒と草刈りを実施(宮司)

が形成されると、林床には陽樹の幼木が育たずに、陰樹の幼木が育つようになり、やがて陰樹のみで構成される林となっていくのです。

### ○松林を整備する

市内の松林は、この陰樹(広葉樹)の侵入が進んでいると同時に、松くい虫の被害により松が減少していました。

そこで市は、平成22年度から24年度の3年間で、松林内の低木の除去と下草刈りを積極的にを行い、薬剤散布車が通れるように作業道を整備しました。林内の見通しは良くなり、松の新芽に薬剤が届くようになりました。



▲市民がスーパークロマツを植樹(福岡)

### ○松を植樹する

松林を保つには松の植樹も欠かせません。松くい虫対策としての駆除や予防を行うことで松枯れを大幅に防ぐことはできます。しかし、どうしても、枯れてしまう松もあるのです。そのため新たに松を植樹することも大切です。植樹にはマツノザイセンチュウに抵抗性があるスーパークロマツを植えます。

市内では、市民が美しい松林を取り戻そうと、「郷づくり」単位で、草刈りや松の植樹などの活動がなされています。



▲光を浴びて、スクスクと育っている松(福岡)

# 郷づくりの活動で松林を守る

郷づくりの活動として、松林を保全しているかたがたにお話を伺いました。



▲市全体の松林を考える緒方義幸さん

ここを繋がないと厳密には10キロメートルとはならない。福間漁港の辺りを見ながら「なんとか繋がらないかな」と思っているんです。

## 地域の宝を残したい

月に1回1時間、郷づくりの活動で草刈りをしています。参加しているのは60歳以上の人が多いです。もつと多くの人が参加してもらいたい。先々のことを考えると、若い世代に繋いでいかないといけない。

子どもたちに松林に入ってもらって、松林の良さを分かってもらいたい。保護者にも分かってもらいたい。

そうすることによって昔から地域を守ってきた松林をみんなで守るという意識が生まれます。そのままに放置しておくとか、松くい虫にやられて枯れてしまう恐れがありますからね。今ある松林を守っていくようにしなければ、もつとないし、市民にとってせつかつくのすばらしい憩いの場にもなる可能性がある場所です。「地域の宝として残していきたい。そしてさらに充実したものにしていきたい」という望みなんです。

## 日本一の松林にしたい

福津市・古賀市・新宮町の松林を合わせると10キロメートルあるんです。10キロメートルという松林の長さは日本一なんです。日本三大松原は虹の松原、三保の松原(静岡県)、気比の松原(福井県)ですが、10キロメートルという長さはどこにもない。虹の松原で5キロメートルぐらいです。

新宮から福津までの松原は、10キロメートルになるから日本一なんです。でも、実は福間漁港の辺りで松林が途切れているんです。だから

## 宮司郷づくりで松林保全

最初は松の魅力にひかれて始めたわけではないんです。魅力も何もやぶだらけだった。平成17年度の市民会議の時に、せつかつくの松林を広葉樹との混合林にするのもつとないなという話があった。

そういうことで虹の松原に見学に行きました。その時に佐賀大学の田中先生の、松葉かきだけで松林を維持していくシステムを作るという話を聞いたんです。

それで私たちは考えた。自分たちの住んでいる地区の松林を守るからには、どんな松林にしたいのか。そういうことは地元の意向で決めないといけない。私たちがどういう松林



▲宮司郷づくり 安岡忠義さん

にしたいのか、そこがはっきりしないと、話は進みませんからね。地元の人間として土地の所有者にちゃんとお話して、昔のようなきれいな松林にしたいのなら、「白砂青松にしたんだ」という意思をはっきりさせて取り組まないといけないんです。それで私たちは白砂青松にするということを目指してスタートしたのが平成20年でした。

でも、最初は何か手を付けていか分からなかった。みんな素人ですからね。そんな時、宮司の郷づくりマネージャーだった元市職員の新海さんがいろいろと対応してくれたんです。それでスムーズに活動がスタートしたんです。例えば、下草刈りにしたって、ものすごい量の草が出るわけですよ。草や松葉の処分のことと考えると、やりたくてもやれない。新海さんが、市の担当者と話をつけてくれたんです。早くにお亡くなりになってね。新海さんは入院する直前まで草刈りをしていました。5月・6月になったらどんどん草が生えてくるでしょ。それを新海さんは一人で草を刈っていた。私はそのことを全く知らなかったんです。本当に温厚な人ですね。

宮司の郷づくりは、新海さんがいたから軌道に乗ったものがたくさんある。松林だけじゃないですよ。



▲福津から新宮までの松林は約10キロメートルある

## 「白砂青松」百年の計

私たちが虹の松原に行って佐賀大学の田中先生に「白砂青松の松林に戻したいんですが」と言って、いろんなお話を聞いたところ、「松は陽樹だから陽が当たらないと衰退して枯れてしまいますよ。広葉樹と一緒に生えているとだめですよ。本当に白砂青松にしたいのであれば、そのような考え方の下に、作業しないといけません」ということでした。

白砂青松の方が管理が楽なんです。管理が松葉かきだけで済むわけですよ。砂の状態にしませんと、すぐに草が生えてきて必ず広葉樹が生えてくるんです。砂地にしておかないとしょうちゅう草刈をしなさいといけない。ところが初めから砂にしてしまえば、草もあまり生えてこないんですよ。そんな松林に20年くらいで何とかしたいと思っ

ているんですよ。同時に松くい虫対策を合わせて考えると、現行のクロマツに松くい虫対策の消毒をしても必ず何パーセントかは枯れますから、100年くらいでそっくり枯れにくいスーパークロマツに変えていくことも一つの手段です。消毒もしながら、

松くい虫に強い松を植樹にしている。それを「百年の計」と言っているんです。

宮司には一部に米松林があるんですよ。米松は松くい虫に強い。だけど日本のクロマツのように曲がらずに、まっすぐに育つんです。単なる松林であれば米松でいいですよ。なにもスーパークロマツにしなくてもね。それはどちらを選びますかということ、田中先生に言われた。これは地元のあなたたちが決めることだと。それで私たちは、一般的に日本人の感覚はね、真つすぐじゃない方がいいよな…となつてね(笑)。もしかしたら若い人たちにとつては、真つすぐで構わないとなるかもしれないですね。

松葉かきだけで済むメンテナンスが労力が少なくて済む。そんな形に持っていこうと考えています。今後ますます少子高齢化が進むなか、ボランティアの人をお願いするときに、下草刈りせないかん、草取りせないかんでは、なかなか大変だと思つてます。高齢者であっても、子どもであっても、ほうきで掃けばいいのですから…。早くその状態にしたいですね。



▲津屋崎郷づくり 寺嶋龍海さん

### 地域を巻き込んだ活動にしたい

津屋崎地区の松林は全て国有林なんです。勝浦も国有林ですね。国有林は、民有林と管理の考え方が違ってきます。松と広葉樹の混合林で管理するという方針なんです。

以前、管理者も見に来られて、陸地側の後背地にはクスとかタブなどの広葉樹があった方がいいだろう。このまま切ってしまうばスカスカになるという意見でした。「広葉樹はできるだけ切らないで欲しい。ただしセンダンには夏は生い茂るが冬は葉を全部落とすから切つていい」ということでした。センダンは冬に葉を全部

### 松林に来てほしい

ふくま郷づくりは、月に1回1時間の清掃をしています。松林を、市の農林水産課が整備してくれたのでとてもきれいになりました。お陰で清掃がしやすくなったですよ。

30人から40人が来てくれる。地元の人や一部の議員さんが来てあります。人の輪が広がりました。もう少し若い人や中高年のかたが来てくれたらありがたいなあと思っていますね。

清掃していく中で感じたことは、松がほとんど無くなっている。そこで植樹祭をしようということで、去年は松を300本植樹したんです。松林を通して、だんだんと人と人が繋がっていると感じます。電話がかかってきて、松林の清掃に来たい



▲ふくま郷づくり 萩原利次さん

落として風を止めてくれないんです。国有林は、広葉樹は残しておかないといけないことになっているんです。国は国の考え方がありませんからね。私たちが松林に入った当初は、小さい虫の被害木は、切り倒されて薬剤を散布された状態でその場に放置されていました。これには大変困りましたね。

昨年からは市の費用で全てチップ化してもらって、遊歩道に敷き詰められたから、作業がずいぶん楽になりましたね。気温が高くなる梅雨時期ごろからは、雑草の伸びが早くて、月1回の作業では追いつかないんですよ。それで会合のときに月2回にしようかと決まりました。9月までは第1・第3土曜日に清掃をする予定にしています。

今の悩みは、若い人や女性に協力してくれる人がほとんどいないということです。他の地域がうらやましいですね。今後は地域を巻き込んだ活動にして協力者を増やしていきたいと思っています。植樹祭にも多くのかたがたに参加してほしいですね。これからは松林の保全活動をしている4地域がよく話し合っ、共通した課題を見つけていきたいと思っています。

んどすけどということも言ってくれる人もいますよ。そういう言葉を聞くのが嬉しくてね。

人が増えていくことが大切ですから、月に1回1時間ぐらいでやっていますね。黒田藩の植樹があったからこそ、現在松が残っているし、今私たちが活動を行っているからこそ、未来に立派な松林を残すことができるんです。

あれだけ綺麗にしているんだから、休日には家族でちょっと来てね、ご飯を敷いて海を見ながら、おにぎりを食べたり、お茶を飲んだりしたら、家族の触れ合いの思い出になりますよ。家族の触れ合いに贅沢はせんていいですよ。清々しい環境の中で愛情を子どもに伝えるということが大切なんです。そういう体験は教育を越えている。子どもと松林を歩いてお弁当を食べる。そんな体験は、海岸と松林がある福津ならではの大切な思い出作りなんです。三つ子の魂百までというでしょう。英才教育も大切かもしれませんが、幼いころに愛情でしっかりと包み込むこと。これが大切なんです。

もちろん愛情の中にも叱咤激励とありますよ。だけど松林という美しい景観の中で体験できることは、すごく大きいんですよ。それが行われたら、非行なんておきませんよ。松林で家族と過ごすということに鍵があるんだよ。松林の中ね。

### 松林が繋ぐ

活動は年に2回の草刈りと年に1回の植樹をせないかん。やおいかん。それでもみんな協力してくれる。

最初はね、ものすごいやぶでね、切り開くのは大変だったよ。うっそうとして人が入れなかった。なんとかせないかんということで、皆さんに入ってもらって、やぶを切り開いていった。それが今の活動に続いていきよつちやないかな。子どもたちと一緒に植樹したりしてね。

昔はね勝浦は大きな松があったよ。きれいやつた。私たちが若いころは、松の木にカヤを張ってね、海で遊んだよ。松林はすごく涼しい。海辺にパラソルとか張って、遊んでいる若



▲勝浦郷づくり 安部正弘さん

者がいるけど、あれは暑いよね。松林に入つてカヤでもしておけば、それはもう涼しかったよ。昔は、そんな良さがあつたとばってんな。勝浦を白砂青松にするという考えはないね。国有林やからね。松林を守るという考えなんです。勝浦は農村地帯やから、松林がなからんと農業がでんからね。一本の木を切るにしても、賛成と反対の意見があるよ。でも、やっぱり松は残さないといけないということとで、保全活動をやっています。

現在、勝浦・宮司・津屋崎・ふくまの4つの郷づくりが、松林について交流するというのは、すごくいいことです。松林を通じて人と人が繋がっている。松林が繋いでいる。今までは郷づくり同士の交流なんてなかったよ。勝浦はね兼業農家が多い。みんな忙しいですよ。仕事して、農業してその上休日にはボランティアに出てこいというのね、なかなか厳しい。でも少し時間がある人にとっては、生きがいになると思うよ。人とも繋がれるしね。ただ田舎の方はね、生涯農業者やからね。定年退職しても、農家の仕事が残るとるんよ。役所の人でも定年退職したら、農業をしますよ。することがある。私も含めて、みんな「忙しい忙しい」と言っています(笑)。

### 松林と一緒に綺麗にしませんか？

勝浦・津屋崎・宮司・ふくまの4郷づくりは、下衆の予定で定期的に活動をしています。どなたでも、自分の近い所、好きな所、都合が付くときに、月に1回1時間程の活動で、美しい松林を育てませんか。軍手・道具およびお茶は準備しています。作業できる服装でおいでください。長靴が良い場合もありますが、運動靴でほとんど大丈夫です。市のボランティア傷害保険にも加入しています。作業内容は日によって変わりますが、作業方法は現地でお伝えします。初めてのかたも大歓迎です。ぜひ気軽に参加ください。

郷づくり会名	対象松林地区	作業日時(※変更の場合有)	集合場所	駐車場	連絡先
勝浦	勝浦 (植樹したところの整備)	年2回(6月と2月) 平成25年2月6日 8:00~9:30	未定	未定	勝浦郷づくり事務所 52-2217
津屋崎	津屋崎 (天神交差点~中川)	第1・3土曜日 7:30~8:30 (当面7月~9月)	夕陽館付近松林内	津屋崎保育園側駐車場	坂口勝繁 52-1071
宮司	宮司 (中川~今川付近)	第1日曜日 8:00~9:00 (中止のときは翌火曜日の同時刻)	宮司浜駐車場から入った松林内	宮司浜駐車場	安岡忠義 52-5583
ふくま (2カ所)	西福岡3・4丁目 (今川~消防学校前)	第1土曜日 8:00~9:00 (10月~5月は9:00~10:00)	サンピア福岡前松林内	松林西側その他	今林 勲 42-1546
	花見の里3丁目 (荻目川~古賀市境)	第4土曜日 8:00~9:00 (10月~5月は9:00~10:00)	花見の里3丁目松林内	花見の里3丁目松林内 ※道幅が狭いため軽自動車のみ可	萩原利次 43-2768

「植樹祭」を平成25年2月23日(土)に各郷づくりで全市一斉に行う予定です。ぜひご参加ください。